



原爆ドーム世界遺産登録20年



第 93 号 2016・3・15

広島ユネスコ協会1年の始まり「ユネスコ新春フェスタ」は、18回目を迎えて2月6日、広島市文化交流会館で華やかに開かれました（総合司会は文化部会長 井尾義信）。地域貢献、国際理解、協力、交流などの活動を奨励する広島ユネスコ活動奨励賞の表彰式と新春コンサートを組み合わせた新春恒例の行事。

第1部の表彰式は亀井章会長が開会挨拶、選考委員長の中山修一広島大学名誉教授が授賞団体の活動の意義を讃えながら講評。続いて表彰状と記念のブロンズ楯が各学校、団体に贈られました。

授賞団体の学校部門は、広島市立戸坂小学校、広島市立湯来中学校、広島市立広島工業高等学校、広島経済大学（カンボジア国際交流プロジェクト）の4校。社会部門は、NPO法人上中調子神楽団あおぞら子ども神楽団、京橋川かいわいあしがるクラブ、広島ラオス交流協会、NPO法人ひろしま点灯虫の会、ひろしま日本語教室の5団体。

表彰式に続いて「新春コンサート」。出演は篠笛奏者の梶川純司さん。明かりを落とした会場に梶川さんが静かに笛を吹きながら入場。そして先ず「荒城の月」を演奏。梶川さんが福島県の芸術祭に招かれた際、会津若松城趾に建つ土井晩翠の

歌碑のそばで「荒城の月」を演奏した時の感動や、原発事故の被災地から避難した福島の仮設住宅で暮らす人々の前での演奏について熱く語りました。

篠笛の演奏は「越天楽」に移り「黒田節」誕生秘話から全国各地に残る子守唄など、日本の歌曲の原点にまつわる話を織り交ぜながら展開しました。そして「赤とんぼ」「ふるさと」「早春譜」を篠笛に合わせて参加者で合唱し終演。梶川さんの人柄に惹かれながらの心温まるコンサートとなりました。

会場を移しての「祝賀パーティー」は、古田碩永副会長の挨拶、藤井正一副会長の乾杯の音頭で会食となりました。松岡盛人副会長の巧みな司会で進むなか、終始和やかな雰囲気

気で盛り上がり松原博子副会長の挨拶で幕を閉じました。こうして、ユネスコ会員と受賞団体の皆さんとの交歓、交流の実り多い一日は過ぎ、今年も思い出に残る「新春フェスタ」となりました。（2～3面に関連記事）

（文化部会長 井尾義信）

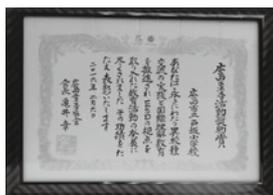
第18回 新春フェスタ2016

表彰式、篠笛演奏華やかに

年々高まる学校や団体の
地域貢献、国際交流活動



演奏する梶川さん



ユネスコ
活動奨励賞
受賞おめでとう
ございます



学校部門

広島市立戸坂小学校 (校長・島本 靖)

20余年にわたる特別支援学校児童との学習活動交流を通して、理解し助け合って生きる大切さを学び、国際理解学習から外国の学校関係者との直接交流も始まるなど、ESD推進の功績により、ユネスコスクール認定を得た。

広島市立湯来中学校 (校長・岡崎善文)

水内川の水質調査や水生生物の採取を通して、環境を維持する意欲や態度を培うとともに、研究成果や情報を地域に発信する活動によって、生活排水整備の必要性や環境保全への思いを地域住民に広げている。

広島市立広島工業高等学校 (校長・荒木 猛)

平和への祈りを込めて製作される「銅板の折鶴」は、広島市表敬者への記念品とされ、またピースデパートで得た収益は、広島市原爆ドーム保存事業基金に寄付されるなど、ヒロシマの心を検証・発信し続けている。

広島経済大学カンボジア国際交流プロジェクト (学長・前川巧一)

教育環境の整備が急務であるカンボジアの子どもたちに、日本の戦後復興事例を記しヒロシマの平和の心を伝える副読本を現地師範学校教員と連携して作成、また文房具・日用品も提供するなど国づくりに貢献している。

(教育部会副部長 湯浅清治)

社会部門

NPO法人上中調子神楽団 あおぞら子ども神楽団 (理事長・池原康則)

当神楽団は、幼児から高校生たちに、伝統芸能である神楽の伝承をしている。また、それを通して地域と一体になり、地域に貢献できる力を警察や教育委員会の協力を得ながら育てている。

京橋川かわいあいあしがるクラブ (会長・山本恵由美)

広島市街地に残されているアシ原の群生地がある。そこでアシを主軸とした多彩な体験活動を行っている。それを通して、人や自然との繋がりの大切さを伝えている。

広島ラオス交流協会 (会長・戸田喬大)

広島アジア大会の開催時から、ラオスとの交流が続いている。今では、ラオスの民芸品や、ラオス料理の販売を行い、その収益金で、スポーツ用品の寄贈や奨学金の支給を行っている。

NPO法人ひろしま点灯虫の会 (理事長・宮田典知)

平和の発信をピースキャンドルを通して行っている。牛乳パックにロウを流し込んで作った灯籠にメッセージを書き、8月6日の夜、原爆ドームの周りで点灯し、平和の大切さを訴えている。

ひろしま日本語教室 (代表・光原鈴江)

広島で生活する外国人に日本語会話の習得を促している。また、交流会を通して、日本の生活習慣を伝えたり、就職活動のサポート、日本語能力検定の支援も行っている。

(教育部会長 世木田寛子)

新春フェスタ 雑感

教育部会
世木田寛子

今年度の広島ユネスコ新春フェスタも盛会のうち終わることができた。

篠笛奏者の梶川純司さんを迎えてのコンサート。目を閉じて聴き入った。少女の頃、走り回った野辺、友と歌った歌、その底に広がる生活の匂いなど、日本の原風景のなかに溶け込むことができた。そして、この広島ユネスコ新春フェスタに相応しい恒久平和を願う梶川さんの語りに痛いほどの思いやりを受けることができた。

また、表彰式での9団体の発表から、この広

島のあちらこちらで多くの小さな光が頑張っていて輝き続けていることが痛いほど分かった。私たちには、この光がこれからも、より輝くための応援をすることや、まだ知らぬところに沢山の光源があるのを見つけ、それらを集め、大きな力を創っていくとの使命があることを改めて自覚した。

パーティーでは、談話をしているうちに、思わぬところでの接点が発見できたり、共感することがあった。これを通し、大きな繋がりがまたできる予感がした。

明日からの元気が確信できた1日だった。

高校生国際理解セミナー2015

12・23
(祝・水)

基調講演 ～ 知って 見て 感じて 私が出会ったフィリピン
講師：元青年海外協力隊員 森木由加里さん

活動発表 ～ 広島市立工業高校、岩国・高水高校
街頭募金 ～ 寺子屋運動支援を呼び掛け

高校生が国際理解や交流を深めるための「高校生国際理解セミナー2015」が、12月23日（祝・水）に青少年センターで開催されました。山口県から今年初めて、高水学園高水高等学校も参加し、市内の高校生含む27名が意見の交換を行ないました。



最初に元青年海外協力隊フィリピン陶磁器隊員の森木由加里さんが「知って 見て 感じて 私が出会ったフィリピン」と題して、フィリピンを紹介されました。

このあと市立広島工業高校の代表が「ヒロシマの心を発信する『銅板』での折り鶴製作」について、取り組みを報告。続いて高水高校から、環

境学習や福祉施設の訪問、国際理解や異文化交流会などの地道な活動や課題について報告されました。

意見交換、昼食後は、八丁堀天満屋ビル前に移動して、コーアクション（世界寺子屋運動募金活動）を行

い、恵まれない子どもたちへの教育支援を呼び掛けました。お陰様で50,713円の浄財が集まりました。募金は日本ユネスコ協会連盟へ送付させていただきました。（青少年育成部会長 國田 繁）



広島市立工業高校



岩国・高水高校



「ユネスコサロン」

☆ (出前講座) ☆

第167回のユネスコサロンが、3月12日(土)午後1時30分～3時まで、安佐南区祇園公民館で行われました。会場では世代と国境を越えて交流を進めている広島ジュニアコーラス・フェミニンコンクール広島・混声合唱団「銀の鈴」の合唱と、指揮者・谷千鶴子さんの講演が行われました。

☆ 3・26に杉並ユネスコ協会来広 ☆

杉並ユ協青年部の平和学習・広島スタディツアーが、今年も3月26日(土)～28日(月)に行われます。広島ユ協は、26日の平和記念資料館の見学や被爆体験を聞く集い、地元高校生との交流、27日の本川小学校訪問などの受け入れを支援・協力していく予定です。

広ユ協の後援・共催行事

後援：広島平和音楽サミット 2016年4月6、7、8日。アステールプラザ、ひと・まちプラザ。

共催：中四国九州ブロック合同・高校生ユネスコ交流研修会「ユネスコみらいミーティングin大分2016」。2016年4月23、24日。大分県由布市

お知らせ・ご案内

「第72回日本ユネスコ運動全国大会in沖縄」への参加者を募集します。

大会テーマ：「持続可能な平和のとりでを築こう！」
～ “命どう宝” ～

- ▼期 間：2016年6月25日(土) 13:00から
26日(日) 12:30まで
大会後は、沖縄の世界遺産や文化・自然を体験する5コースのエクスカッションが用意されています。(旅行費用別途)
- ▼会 場：沖縄コンベンションセンター劇場棟
(沖縄県宜野湾市)
- ▼参加者：日本ユネスコ協会連盟会員、各地域ユネスコ会員
- ▼参加費：31歳以上6,000円、青年の部35歳以下3,000円
広島ユネスコ協会から参加一部負担があります。旅費と宿泊費は自己負担
- ▼申込み：4月10日までに事務局へ
(事務局長 森木 学)

わたしの平和宣言

(「わたしの平和宣言」は、1998年に開かれた国際人権会議に集まった、ノーベル平和賞受賞者たちが起草した6項目の誓い。項目のタイトル部分)

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立って考えます
- かけがえのない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます

世界遺産と原爆ドーム

1946年にユネスコが設立され、1954年に「武力紛争の際の文化財の保護に関する条約」が採択された。1960年、エジプトでアスワン・ハイ・ダム建設が始まり、ヌビア遺跡が水没することが懸念された。これを受けて、ユネスコがヌビア水没遺跡救済キャンペーンを開始。結果、多くの国から寄付金が集まり大規模な移築工事が実現、ヌビア遺跡内のアブ・シンベル神殿は守られた。

これらの流れを受けて、1972年のユネスコ総会で「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(いわゆる世界遺産条約)が採択された。2015年12月現在、締約国数は191か国で、世界遺産は1031件である。

2016年度で「原爆ドーム」が世界遺産登録20年を迎える。原爆ドームを見上げるたびに、ヒロシマの思いを風化させずに繋いでいくのが、われわれの使命であると痛感する。

(事務局次長 平井 勇)

日 誌

〈'16年1月〉

6日／新春フェスタ打ち合わせ会(文化・教育部会)
9日／理事会

〈2月〉

6日／新春フェスタ
6日／杉並ユネスコ協会の広島訪問打ち合わせ会議(平和・世界遺産部会)
18日／「大邸の日」準備会議

参加(国際部会)

20日／正副会長、部会長会
〈3月〉
8日／広報部会打合せ会
12日／第167回ユネスコサロン(出前講座) 祇園公民館

(文化部会)

26、27日／杉並ユネスコ協会第18回広島訪問平和学習受け入れ(平和・世界遺産部会)